

来週の「売り物」記事はこれ



2010年12月17日号 毎日新聞東京本社 編集局・販促宣伝部

こうのとりに追って 不妊治療の光と陰

くらしナビA面 20～24日

赤ちゃんのできないカップルに福音をもたらした不妊治療ですが、卵子提供や顕微授精など技術の進歩とともに、夫婦の心身の負担や悩みも強くなっています。不妊治療を続ける人や体外受精で生まれた人たちに会い、心情に迫りました。



あなたの処方箋 月経困難症 くらしナビA面 20～24日



おなかや腰、頭がひどく痛み、日常生活が送れなくなるほどの生理痛を抱える女性が増えています。「病気じゃないから」と我慢していませんか？ 痛みの原因が子宮内膜症や子宮筋腫の可能性もあります。病との見分け方や痛みのコントロール法をお伝えします。

ペットのアレルギー くらしナビB面 21日

花粉症やアトピー性皮膚炎など、人間と同じようなアレルギー症状を起こす犬猫が目立ちます。強いかゆみの特徴ですが、言葉では訴えられず、飼い主が仕草から判断するしかありません。花粉の飛散量が多くなる来春を前に、受診の目安や対策を調べてみました。



「五輪ボイコット30年」第5部・海外編 世界に残る禍根――

運動面「インサイド」21日から連載



世界のスポーツ界に衝撃を与えた1980年モスクワ五輪のボイコット問題を追う長期連載企画は、第5部で、日本以外の国々への影響に焦点を絞ります。カーター政権の下、世界に参加ボイコットを呼びかけた米国は今、オリンピック運動の中で存在感の低下が目立ち始めています。西側諸国への報復のため、84年ロサンゼルス五輪をボイコットしたロシアは、14年ソチ冬季五輪の開催で競技力低下からの脱却を図っています。このほか、韓国、中国、英国のスポーツ事情を紹介。21日から5回の連載で、五輪ボイコットの今に残る傷跡や、世界のスポーツ界に与えた変化などを紹介します。

ザ・特集

2011年はいいい年でありますように…

雑学満載！ 「うさぎ」の研究 23日（木）

今年も早いもので、1年が暮れようとしています。国内を見渡せば、政治は相変わらず国民不在のゴタゴタ続き、経済面もこれまでにない厳しい雇用情勢で、暗い気分が覆われています。迎える2011年はうさぎ年。明るい年であってほしい——と誰もが願っていることでしょう。そうしたなか、少しでも明るい気分になってもらいたいと、干支（えと）の「うさぎ」にちなんだ「へ〜」な話を集めました。うさぎは元もと軍需物資だったことを知っていましたか？ それに、ジャンボうさぎともなれば体重10kgの幼児並の大きさになることは？……。そんなうさぎにまつわるアンビリバボーな話をお届けします。



“知りたいが分かる”がモットーの「ザ・特集」に、ご期待下さい。

紙面事情などにより掲載日が変更になることがあります。